

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム大社
(ユニット名)	縁
所在地 (県・市町村名)	島根県出雲市
記入者名 (管理者)	富田 利美
記入日	平成 21 年 7 月 2 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者は常に理念に基づいた支援を行うよう助言している。職員は理念に基づいて作成されたケアプランに添って支援を行っている。(支援の取り組みと振り返りを毎月作成している。)		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	当事業所が開所して5年になる。少しずつではあるが、輪がひろがっており、今後も意識して交流の場を広げていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	々

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は認知症介護の指導者として各地で様々な研修を行っている。また実習生を積極的に受け入れている。	○	地域へもっと認知症の理解を深めてもらえる様な働きかけに努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	当事業所は日常生活自立支援事業所や成年後見制度を利用しておられる利用者の方や成年後見活動を行っている職員がいるなど積極的に活用支援している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催。当事業所の日々の様子と共に、入退所の状況や事故の報告など行い批評や意見をサービス向上につながるよう努めている。会議内容は職員にも開示、虐待、権利擁護事業、看取りなどへの意識喚起を促している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会との交流や所長の認知症介護指導者としての連携など共に向上を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当事業所には地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用しておられる利用者の方や成年後見活動を行っている職員がいるなど積極的に活用、支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については「高齢者あんしん支援センター」と常に連絡をとりあい対処している。難しい諸事情をかかえておられた事例もあったが連携し解決する事が出来た。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時にゆっくりと時間をとり起こりうるリスクや重度化についての対応、医療、連携体制についてなど詳しく説明して、家族からの要望も聞き入れ同意を得ている。介護報酬の改正の利用料が増加する場合など事前にお知らせして文書で送っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の担当があり、外部にも表せる様玄関外側に行政への連絡先を大きくポスターにして設置している。又運営推進会議に利用者も出席し、意見を述べる場を設け要望はミーティングを行い、反映させている。	○	外部にも表せられるよう玄関外側に行政の連絡先、苦情処理担当者名を表示したポスターを大きく設置した。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月初め御家族に担当者が手紙を出し日々の様子をお伝えしている。請求書と共に預り金の収支報告もしている。そのほか緊急時にはすぐに連絡をいれている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満、苦情を担当者、苦情処理担当者が受け付け職員全体へ反省、改善を促し、全体指導も行っている。2カ月に一回の運営推進会議、年一回の長寿の会において御家族同士の意見交換の場となっている。	○	最近、市の苦情窓口へ出向かれた御家族があった。真摯に受け止め、改善していきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ユニット会議、ケース会議に職員の意見、提案を管理者はくみとっている。利用者入居時にも職員の意見を反映している。運営についても管理者より随時職員へ報告を行っている。	○	月に一度は管理者、主任等と個別に職員の意見を聞く様に時間を設けていくことを継続していく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表は両ユニットのリーダーが中心となり職員と作成し、十分な人員を確保し、利用者によりゆとりとした生活をして頂けるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限におさえているが利用者の方の状況の変化などによってやむを得ぬ場合は、小規模になるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は認知症介護の指導者として、職員の研修には積極的に取り組み実践者研修、リーダー研修その他研修に受講させている。又内部研修も定期的に行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は出雲市認知症グループホーム連絡協議会の事務局をしていることもあり積極的に活動交流の場を設けている。研究発表を行い質的向上を図った職員もいる。又会によって輪が広がりお茶会に誘われたりしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望休みや職員の意見を取り入れたシフト作成を行っている。有休制度もとり易いよう配慮、協力を行っている。年に数回職員同士の親睦会も開催している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を目指す職員も数名いる。管理者は各自の目標や振り返りを提出させ個々に応じて助言している。リーダーも管理者の意向に沿って助言、励ましを行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時は家族、本人と一緒にいき、不安な事など聴きながら情報を得、ホーム内の見学してどういふ所なのか納得して頂き入所されるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時には家族の話をよく聴けるような十分な時間を設けている。入居まで期間はじっくりと考慮されるよう家族、本人の希望に沿って決めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人、家族の思いや状況を確認して本人の改善に向け介護用品が必要な方においては購入しやすい様、他事業所へのサービスを受入れ出来る様支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に当事業所をゆつくりと見学して頂き、面談を行い納得してもらった上で利用して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の個々の得意な事を把握し、一緒に出来る場面を自然に作りながらも利用者に教えて頂くことが多く、職員が成功した時には一緒に喜んで下さる。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議に参加して頂いたり、御家族が一同に集まる場を設けたりして、御家族との絆を深めている。又、面会時には近況をお話するなどして、関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思い、言葉を伝えるようにしている。生活の変化によるストレスを感じない様に心掛けている。御本人、御家族との関係は色々なパターンがあり、当ホームを利用されることにより、少しずつ改善されている事例もありありがたく思っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく友人、知人も面会にきて下さっている。馴染みの理髪店に今でも通われるなど関係が続くような支援を心掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話が合う方々は食事やお茶の時以外でも良い関係を保っておられる。妄想などがあつたり、良好な関係をもちにくい方には職員が間に入り調整に努めている。	○	今後も利用者の相談など個別に聞き入れをしながら職員同士でも情報を共有しあい利用者同士が沢山関わりをもてる様工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状態が改善し、グループホームからケアハウスに移られた方もおられるが現在も近くまで来たからと寄って下さっている。ホーム外でもお会いすれば快く声を掛けて下さっている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から希望や意向の把握を行っている。本人主体を尊重している。困難な場合の方でも家族からの情報を得ながらさりげなく会話していき希望を聞き入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの生活歴など聞き入れているがさらに家族へ本人の生活歴に関する情報の大切さをお話していき本人がより良く生活出来る様取り組みが必要である。	○	センター方式を定期的に作成し、共有する必要がある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常にホーム内での家事(食器拭きや洗濯干し、洗濯たたみ、掃除)などを職員と一緒にやり、その中から日々の利用者の行動、気持ちの把握に努めている。「できない」という情報にとらわれず、本人の能力が発揮できる様ユニット会議等で共有、提案を繰り返し行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人へ「どう生活していきたいか」家族へ「どう生活してほしいか」意向を細かく聞き入れ介護、医療の面からの課題、ケアについて話し合い医師の指示も取り入れながらチーム全体で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に応じて担当職員はじめユニット全職員が都度ケース会議を行い本人や家族との話し合いの場を設け計画、内容の見直しを行っている。ある利用者の方で排泄記録や本人への声かけの見直しでリハビリパンツの使用量が減ってきている。	○	専門性を活かした対応の見直しやADLの低下改善への取り組みが必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の水分摂取量、排泄記録をとっており個々の様子が分かる様にしている。毎日の業務日誌や個人のケース記録は5W1Hにそって明確に記録していきそれを基に情報を共有しあい実践計画の見直しを行っている。	○	個々の利用者が看護師の記入による看護日誌(業務日誌以外で日々の体調や心身状況の変化の記録)を作成して受診時に立ち合った職員が適確にDrに状況を伝える様にしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の定期受診や緊急な受診の時も職員が同行している。家族にも都度連絡、報告を行い安心して頂いている。利用者の状況によっては協力医院の強力体制もあり往診して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームの運営推進会議には民生委員会の方が参加され助言して頂いている。消防署の方にも避難訓練に参加、指導を受けている。又、地域のボランティアの方には、折り紙や、フルート演奏などに来て頂いており、利用者の方に喜んで頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当事業所から他の事業所へ本人、家族の希望により紹介を行った。オムツ類はじめ対応の検討案など家族と相談しながら支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業、成年後見制度を利用しておられる方や、虐待のおそれのある方については地域包括支援センターと積極に連絡をとり相談を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の説明を行っており、受診時には全て職員が同行している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の病院の定期受診を職員同行で行って本人が行けない場合でも職員だけでも行き医師と相談ができる様協力体制ができています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護師は3名いる。不在の場合は常時介護職員からの連絡を受け情報をもとに助言や対応についての指示ができる様にしている。協力病院の理解、協力も得ており訪問看護もして頂いて連携しあっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際にはお見舞いに行き、信頼関係の継続に努め、短期間での入院生活になるように医療機関との連携を図り、早期退院回復に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、利用者本人、家族がどうしていきたいか話し合い医師とも相談しながら本人、家族の意向に沿って「できる事」「できない事」を具体的に伝えている。	○	当事業所でも重度化が進んでおり看取りの経験も活かし重度化の場合の介護計画を作り改善に向け検討していく必要がある。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最期をホームで希望されている方についてはホームで「できること、できないこと」の説明を行っておりその上で最期を望まれる場合は職員にも状況を伝えかかりつけ病院、本人、家族、ホームとの話し合いをしっかりと行き都度身体状況の変化にも対応できる様配慮している。	○	かかりつけ医が夜間の急な状況変化にも対応していけるか、確認して、本人や家族、職員も安心してケアが提供していけるよう努めたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	御家族と十分に話し合い相談して、今まで本人が使い慣れた家具など使用することで環境の変化があまりない様対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	都度気づいた時は注意を促しており毎朝の朝礼での申し送り時や、ケース会議等での対応についての意見交換をしあっている。個人情報については、ケアを提供していく上で、どうしても必要な場合、本人、家族の同意を得て共有しあっている。	○ 各利用者への訪室時にノックをしているが本人への確認をせずに入室していることがあるためプライバシーについて確認していく必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望に沿った外出や、食べたい物を希望メニューにしている。買物時には本人の好物を購入したり散歩などの見守りを支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのだいたいの一日の流れはあるが、各利用者の方のペースを大切にして、希望を都度聞き入れ対応している。しかし、共同生活やリスク回避のために個々のペースに合わせられない時もあり、その時は本人に納得してもらえる様説明して理解を得ている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室が併設しており月一度のペースで希望により対応している。衣類や身だしなみ用品の購入などに付き添い支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食料品の買い出し、献立づくり、調理での味つけ、盛り付け、配膳を利用者の方の力に応じて、出来るだけ力を発揮して頂けるよう職員と共にいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲料水、食品(おやつ)は好みの物を買ひ、好きな時に食べておられる。お酒、タバコは医師の指示を仰ぎながらすすめている。希望に沿えない場合は、行事等で少量を味わってもらっている。	○ お正月、お花見にはノンアルコールビールで気分を味わってもらい喜んで頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録を作成し個々の排泄リズムの把握に努め、声掛けにより改善されている。水分補給表も作成し、意識して必要量補給に努め、気持ち良い排泄につなげている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望の時間に出来るだけすすめている。体調を考慮しながら時間は調整しているが、入浴が無理な時はシャワーや清拭にて清潔保持に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は体調を見ながら活動に参加して頂くよう心掛け、安眠してもらえるよう配慮している。年齢や体調に応じて、昼寝の時間を設けておられる方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描く方、歌の好きな方、将棋、碁を楽しまれる方など意識して場作りに心掛けしている。ドライブ外出、喫茶外出などへの参加も計画に挙げ単調な生活にならないように配慮している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理(お小遣い程度)されている方もいる。基本的にホームで預らせてもらっているが、力に応じて、預かり金を渡し買い物時には見守りの中ご自分の好きな物を購入しておられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	必要品は一緒に買い物に出かけ、ホームの買い出しにも必ず同行してもらっている。喫茶外出や、催し物への参加やホームの庭内での日光浴、散歩、散策など体調、年齢、好みに合わせて支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	絵画に興味のある方は、展覧会や画材店へ出掛け、釣りの好きな方には海へのドライブなど好みを満足してもらえるようお手伝いしている。又、家族の方と外食や喫茶店へ定期的に出掛けられる方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族へ電話されることもあり、近況を聞かれた事で安心しておられる。どして良いか分からず、不安になっておられる方には、御家族に確認しながら連絡が取れるようにお手伝いしている。	○	利用者の方が直筆にて年賀状を家族へ出された。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由で毎日来られる御家族もあった。旬の採れたて野菜を持ってきて下さる方もいる。希望に応じて居室、食堂、和室、応接室と自由に利用してもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	散歩好きな方や帰宅願望のある方で外へ出向かれる頻度の多い方にはすぐに止めるのではなく、さりげなく声かけをして職員も一緒に外へ同行している。	○	転倒や誤嚥など身体的リスクにおいてリスクを防止するという理由から行動制限をかけていないか再度見直しして、身体拘束をしないケアにつなげていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は外部からの防犯のため施錠をしているが、日中は玄関や勝手口の鍵をせず、自由に出入りをすることが出来る。頻繁に戸外に出られる方に対してすぐに声をかけたりすることなく、情報を共有し事故等が起きないようにさりげない見守りもしている。また家族とも情報交換をして拘束のない事業所作りをしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室でおられる方で転倒の危険のある方や、冷暖房の適切な操作の出来ない方などおられるため、定期的な様子、見守りを行っている。又、ホームは道路に面しており、庭内や散歩に出られる方の安全確認に気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人、家族に同意を得て刃物類はお預かりしている。使用される際には、必ず見守りをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員、利用者の現在人数は数時間毎に事務所のボードに記入し、外出の際にも行く先、時間を記入している。ヒヤリ・ハットの記入で危険度の高い方の把握と予防に統一して取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習会への参加、マニュアルを職員が確認し、看護師を中心に判断、対応をしている。消防署から、消火器の指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を毎月行っており、さまざまな想定のもとに行い、消防署、防災会社の方と一緒に総合避難訓練も行っている。	○	時間設定変更(夜間)を検討し、取組の改善に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族に説明し、理解を得てケアを行っているが、リスクを考えるばかりの過剰な対応策にならないようにミーティングで話しあっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定、月一度の体重測定、定期受診により医師からの指示に基づき、日々の体調変化に配慮しており、特変時には、早めに対応、受診を行っている。	○	看護日誌を取り入れ看護師を中心に特変時などの対応に備える。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表はファイルに収めてあり、緊急時にもすぐ対応できるようになっている。服薬の変更時には症状、効能について詳しく日誌に記載し職員全員で把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促す様野菜を多く取り入れた献立に配慮していき水分補給表を作成して水分摂取量を常に心掛け下剤に頼らない様になっている。	○	便秘解消のための特別な運動はしていないが日々の散歩や外出を通して運動不足解消のため取り組んでいきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいの声掛けをして、見守る事によって、実行できる方が増えつつある。夜間は、義歯をはずしてもらい出来ない方は職員が洗浄している。	○	歯科衛生士の職員もいる為、口腔ケアについてのミーティングを実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康上から量の調整、刻み食などの配慮をしている。家庭的な料理を心掛けメニューを作成している。水分摂取量は全て記入しており把握している。	○	検食を職員が毎食行い、安全性、評価を行い、改善を重ねている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は、毎年職員、利用者の方共に行っている。他の感染についてはマニュアルを掲示、ファイルし、徹底している。食前や外出後の手洗い、消毒を励行している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は賞味期限を確認して購入し、生モノは当日購入するよう心掛けている。台所の掃除に心掛け、消毒、漂白を行っている。		BBK水を取り入れた消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に利用者の方が描かれた絵を飾ってある。一緒に植えた花が花壇にあり、外にはベンチもあり利用者の方が日光浴や会話を楽しめる場となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、ソファなどの憩いの場を設置している。生活音を少なくするようテレビ、足音、職員の声などに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりお茶を楽しんで頂けるよう食堂テーブルにお茶を常に置き、歌詞本やラジカセを設置し和やかな雰囲気を中心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはクローゼット、洗面台は設置してあるが、他の物は本人の使い慣れた物や好みのカーテンや、植木など置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を定期的におこない温度、湿度計、空気清浄機を設置し、意識して温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーとなっており、廊下には手すりを配置、車椅子可能な広さをもったトイレとトイレ内の手すり配置と配慮した設計となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	活動への参加、個々の得意分野を発揮して頂けるお手伝いをしている。混乱や、失敗時にはそっと、見守り、フォローをしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム内の中庭や玄関先にはベンチを設置し、庭には花壇や畑があり、手入れなど積極的に参加していただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方の思いを出来るだけくみとり、毎日楽しく一緒に生活ができるように取り組んでいます。毎日の食材の買い出しを一緒に行き、調理、盛り付け、配膳を手伝っていただいています。医療機関への受診もご家族の協力を得ながらスタッフを中心に行き、健康的な生活ができるように支援をしています。看取りの経験も数名あり、これから終末期を迎える方もあると思うが、家族会、運営推進会議に於いても説明を続けておりホームと家族、主治医との協力も得ることができて家族も安心されていると思います。ケアプラン作成にあたって管理者、ケアマネに任せるのではなくそれぞれの担当職員を中心にユニットの全職員で検討し全職員がユニットの全利用者のケアプランを把握して日々のケアに努めています。将来自分が入りたい事業所を作るためにも、身体拘束の無い普通の生活ができるように取り組んでいます。また併設の美容室を活用し、いつまでもおしゃれ心を大切にいただき笑顔の絶えない事業所作りに取り組んでいます。